

バスケットボール競技におけるルールの変遷について

A study on transition of rules of the game of basketball

1K07A111-4 佐々木 悠吾

指導教員 主査 倉石 平 先生 副査 磯 繁雄先生

【目的】

バスケットボール競技における、FIBA ルールの変更、特に英語で表記されたものを日本バスケットボール協会（以降 JBA とする）にて和訳し、解説を付けた日本独自のルールブックを参考に、ここ 10 年分をまとめ、分類をしてどのようにして変遷しているかを調査する。その結果、変更がなぜなされるのか、その狙いは、そして今後どのような傾向にあるかを考察する。

【方法】

JBA 発行のルールブックをもとに、変更点を抽出し、大分類する、その中から、名称の改訂や、表現方法などの変更を抜き、あきらかにルールが変更となっている点と変更の頻度を調査し、どのような変遷をしているかを現状把握する。大分類として 6 つの項目に分類する。頻度の高いものを抽出し、近 10 年間の傾向を見る。

【結果】

近 10 年間のルール変更は 267 件に上る。6 つの大分類に分けると、①ファンのため等の変更は 21% ②プレイヤー保護のため等の変更は 18% ③ゲームの進行に関する変更は 42% ④複合的（上記の①～③が 2 つ以上含まれるもの）なルールの変更は 12% ⑤その他のルール変更は 4% ⑥名称の改訂、表現方法の変更に関するルール変更は 3% であった。以上のことから、ルールの変更は①～③（④は上記の①②③に含まれる事柄なので同様に考える。）①～③のルール変更は、主だったルールの変更点と言える。

【考察】

1 ファン、観衆のためのルール変更であり、全体の大半が 25% 程度に相当する。近年の競技の高度化に伴い、大会の運営やメディアに関しての影響が大きくあると考えられる。ファンにより良いゲームと言われるように、FIBA（世界バスケットボール連盟）は今後も、この部分に関しては変更していくと思われる。

②プレイヤーのほどに関するルール変更は、大よそ 20% 程度に相当する。この部分は、競技の高度化に伴い、プレイヤーのプロ化等が深く影響しており、したがって審判科の影響を受ける上に、プレイヤー同士のファイティング等が頻繁に起こったため、スムーズにその行為が起らないように、もしくは回避するためにこのルールの変更が大きく取り上げられたと考えられる。

③ゲームのスムーズな進行および運営に関する変更は、最も多く 42% であった。競技の高度化と観衆、メディアなどバスケットボール競技を愛する全ての方々へのことを考え、よりスピーディーにゲームを進行することを念頭に置いている。事実、ショットクロックの短縮化は、より早くシュートに繋がり、エキサイティングなゲームを表現するようにルールが変更された。このルール変更は、隆盛を期しているプロバスケットボールリーグの NBA のルールと同じとなった。よりテレビ向き、ファン向きを意識していると考えられる。

【まとめ】

近 10 年間のルールの変遷をみてみると、あきらかに①ファンなど観衆、そしてプレイヤーにイージーに理解できるためのルールの変更、②プレイヤーを保護するため、③ルール上進化に基づいて、白黒ははっきりさせなければならない、コートのことや、トラベリングのことなど。

以上のことを鑑みると、あまりにも分かりづらかったルールを簡素化し、万人に理解されるように、そしてファンなど観衆のことを十分に考慮したルール変更になっていると考えられる。

ここ 10 年間は、以上の 3 つの事柄の変更が多く、今後もよりバスケットボール競技が盛り上がることを意識しての変更となっていると考えられる。